



○茨城県教育目標

- ・ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう
- ・じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う
- ・郷土を愛し 協力しあう心を育てる

○小中一貫教育目標「郷土を愛し未来を拓く児童生徒の育成」

- ・「よく考える児童生徒」・「思いやりのある児童生徒」
- ・「がんばりぬく児童生徒」

○学校教育目標

知性に富み、心豊かで たくましく生きる生徒の育成

○鹿嶋市教育の基本理念

「地域が育て 地域を創り 未来を拓く 鹿嶋っ子」

○学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進

- 1 幼児教育の推進
- 2 豊かな心の育成
- 3 健やかな体の育成
- 4 確かな学力の保障
- 5 時代の要請に応える教育の推進
- 6 キャリア教育の推進
- 7 郷土教育と国際教育の推進

組織目標

具体的な姿

【キーワード】
認め合う
支え合う
高め合う

☆感謝
☆マイナーチェンジ
・自分自身に対する小さな改良と修正
☆凡事徹底（生徒会より）
・「当たり前のことを徹底して実行すること。」（国語辞典より）

重点施策

生徒一人一人の自己有用感・自己肯定感をよりいっそう高める

～安心して学べる環境づくりを通して～

自己有用感＝①自分の存在価値を感じる ②誰かの役に立てたという成就感 ③誰かに必要とされているという満足感

自己肯定感＝①失敗することもある、上手くいかないこともある ②よいところもある ③「ありのままの自分」も大切にしたい

自ら考え、学ぶ生徒 《かしこく》

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
 - 単元構想の確立
 - 中学校区スタンダードによる授業展開
 - 何を身に付けるのか「ゴール」の明確化
 - 「ゴール」達成に向けた学習課題の工夫
 - 学習課題解決のための学習形態の工夫（個人・グループ・全体）
 - 一人一台端末の利活用を通じた個別最適化な学びと協働的・探究的な学びの併用
 - ・市授業スタイルの実践、市授業改善プロジェクト（国語科）の活用
 - ・研究テーマの実現に向けた実践
 - 県学力診断のためのテスト数値目標設定
 - ・数学科での習熟度別授業の実施
 - ・県英語教育AI活用推進事業での授業改善
- 2 生徒一人一人が自己の学びの変容を分析する振り返りを大切にする。
 - 「『ふりかえり』のポイント」小中連携版を活用した自己調整力育成とメタ認知促進
- 3 朝自習や家庭学習等でA Iドリルを効果的に活用する。
 - タブレットとノートを併用した学習を推奨

豊かな心で、認め合い 支え合う生徒 《やさしく》

- 1 学年・学級経営の充実に努める。
 - 生徒一人一人の個性・特性の理解
 - 生徒一人一人に役割と責任
- 2 道徳教育の充実に努める。
 - 道徳の時間を要とし、体験活動や実践活動の推進（校内、地域とのふれあい）
 - R7重点内容項目「思いやり、感謝」
- 3 特別活動の充実に努める。
 - 生徒が主役となる教育活動の推進
 - 公民館と連携した地域行事への参加
- 4 心の落ち着きや安心感を育む教育相談体制の確立に努める。
 - スクールカウンセラーとの連携
 - 「教育相談週間」と「チャンス相談」
- 5 いじめ防止基本方針の「目指す姿」を共有し実践する。
 - 回復、関係の修復、好ましい集団活動の取り戻しと新たな活動に踏み出すことを目的にいじめに対する措置を行う。

健やかな体で、がんばりぬく生徒 《たくましく》

- 1 学校教育活動全体を通じた体育・スポーツ活動の充実に努める。
 - 教科体育における多様な指導方法
 - 運動部活動における生徒自らの活動計画等の立案・実践・検証
 - 運動部活動の場を「人間関係の構築や人間性を磨くため、自己有用感、自己肯定感を高めるための活動」と捉え、学校生活のさらなる充実を図る。
 - 茨城県「部活動の運営方針」（改訂版）の順守
- 2 危険予測・危険回避能力の向上に努める。
 - 防災教育及び安全教育の充実
- 3 生徒の心身の健康に関する指導に努め、健康管理に関する情報を積極的に提供する。
 - 健康・安全に関する自己管理能力を育てる指導の徹底
 - 外部講師を招いた薬物乱用防止教室、性に関する学習会の実施

目指す学校像

- ① 生徒の自己有用感・自己肯定感が高まる学校
- ② 教職員がやりがいをもてる学校
- ③ 保護者が通わせたい学校
- ④ 地域から応援される学校

目指す教師

生徒に寄り添い、認め、支えることができる教師

地域とともにある学校

- 積極的な情報発信（HP・メール配信・各種便り）
- 施設分離型小中一貫教育の周知
- 学校運営協議会、公民館、地域との連携と協力体制の構築

働き方改革の推進

タイムマネジメント力の向上
○教職員が生徒と向き合う時間の確保のために（授業準備や生徒とのふれあい、相談に時間をかける）

<数値目標>

- 自己有用感の高まりを実感している生徒90%以上
- 自己肯定感の高まりを実感している生徒90%以上
- 家庭学習や自主学習を行う生徒85%以上
- 主体的に授業に取り組む生徒85%以上
- 「学校が楽しい」と感じる生徒100%
- 先生は「生徒に寄り添い、認め、支えてくれる」と感じる生徒95%以上
- 運動・体を動かすのが好きな生徒75%以上
- 運動を通して協力することのよさを感じた生徒70%以上
- 1月超過在校時間45時間以内の教職員75%以上

【主な研修】

- ・市授業改善プロジェクト（国語）
- ・研究テーマに関すること
- ・生徒指導及び特別支援教育に関すること
- ・部活動経営に関すること
- ・服務規律に関すること
- ・新規採用、2年次、3年次教員に関すること

【特別支援教育の充実】

- 全教職員の取組による生徒一人一人の個に応じた教育を充実させる。（合理的配慮や効果的な支援方法等の共通理解）
- 特別支援コーディネーター等を中心とした校内支援体制を強化し、組織で対応する。（※インクルーシブ教育システムの理解、基礎的環境の整備、実践）
- 学校・生徒・保護者等との情報共有及び共通理解を図る。
- 成功感を生み出す支援を心がけ、成功体験を増やし自己肯定感を高める。

【生徒指導の充実】

- 生徒の自己指導能力を高める。
 - ・生徒に寄り添い、生徒を認め、生徒を支える。
 - ・『指導の引き出し』と『感性の引き出し』を増やす。

研究テーマ

『個別最適な学びを図る学習活動の在り方～学習指導の工夫と振り返り活動を通して～』